

かわら版  
おけがわ  
はたご  
旅籠  
ふれあい庁舎  
Vol.4

新庁舎基本設計においては、昨年末から設計内容の見直し・調整を行い、基本設計(案)の方針を固めました。

そして、去る4/4(土)、4/5(日)には、3回に渡り市民説明会を行い、基本設計(案)について説明しました。

今後は、6月末の基本設計完了に向け、設計内容を精査していきます。

今回のかわら版は、方針が固まった基本設計(案)の概要についてご報告します。

パブリックコメント

平成27年4月6日(月)～

平成27年5月8日(金)

基本設計(案)をホームページに掲載し、意見を募集しています。

下記閲覧場所でも基本設計(案)を閲覧できます。

情報公開コーナー、新庁舎建設推進課(土・日・祝日を除く、午前8時30分から午後5時15分まで)

桶川公民館、桶川東公民館、加納公民館、川田谷公民館(月曜日を除く、午前8時30分から午後5時15分まで)

基本設計(案)の概要-1

おけがわ旅籠ふれあい庁舎



市道側から見た外観イメージ

新庁舎設計の考え方

1. 立地特性・周辺環境等に配慮した庁舎

限られた敷地を有効に使った建物配置と、周辺住宅に配慮したボリューム構成で、ふれあい庁舎の「顔」をつくります。

2. 防災・災害復旧拠点としての役割を果たす庁舎

防災・災害復旧拠点として、災害発生時に安全で、災害直後も継続して使える庁舎をつくります。

3. 建設コストの縮減及び維持管理の容易性やランニングコストの低減に配慮した庁舎

建設・ランニングのバランスに配慮し、総合的なコスト削減を図ります。

4. 自然エネルギーの活用や省エネルギー化等による環境負荷の低減に配慮した庁舎

桶川の気候と敷地条件に即し、庁舎としての最適な環境技術と、市民の憩いの場となる快適な空間をつくります。

5. 市民が利用しやすく、時代の変化に柔軟に対応可能な庁舎

分かりやすい平面構成、迷わない空間構成と、入りやすい雰囲気、安全な設えを備えた使いやすい庁舎をつくります。市民の交流の場をやさしく包み込み、市民がふれあう空間をつくります。

計画概要

敷地の場所：桶川市泉1-3-28 (旧庁舎の位置)

敷地面積：約4,180㎡

延べ面積：約8,300㎡ (駐車場除く)

主要構造：鉄骨造/免震構造 (1階柱頭免震)

階数：地上5階 塔屋1階

駐車台数：約60台

駐輪台数：約200台



駅方面からのアプローチイメージ

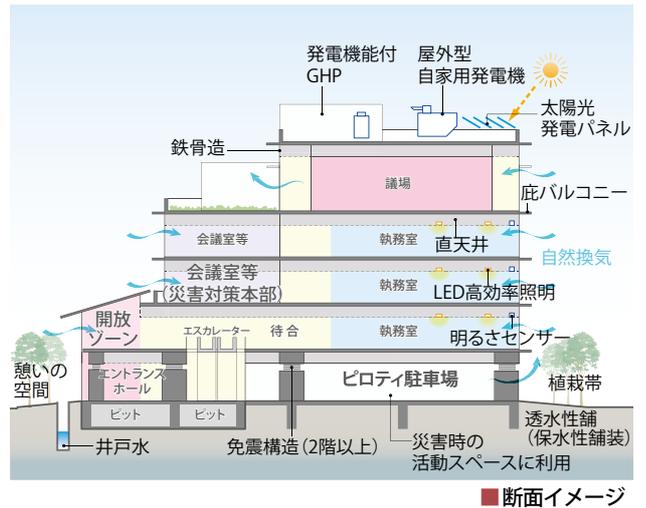
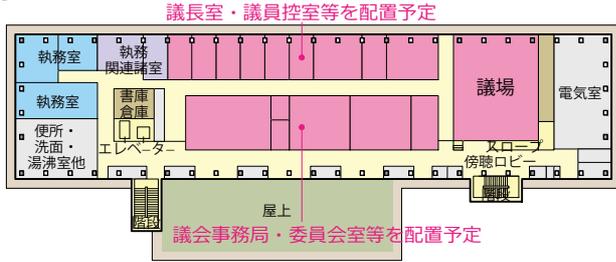
<発行> 桶川市総務部新庁舎建設推進課 <編集協力> 株式会社 日本設計

<お問い合わせ・事務局> TEL：(048)786-3211 FAX：(048)787-5409 E-mail：chosha@city.okegawa.lg.jp

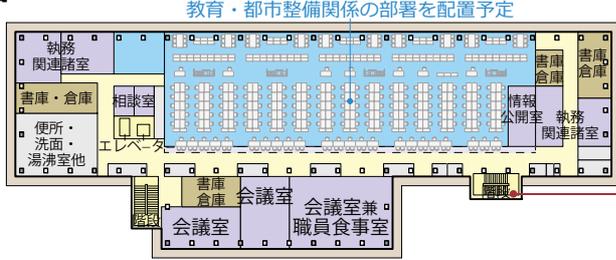
※この「かわら版」は、新庁舎建設推進課、市民課ロビー、東部連絡所、駅西口連絡所、川田谷公民館で配布しています。また、ホームページで閲覧できます。

基本設計(案)の概要-2

5階 議会

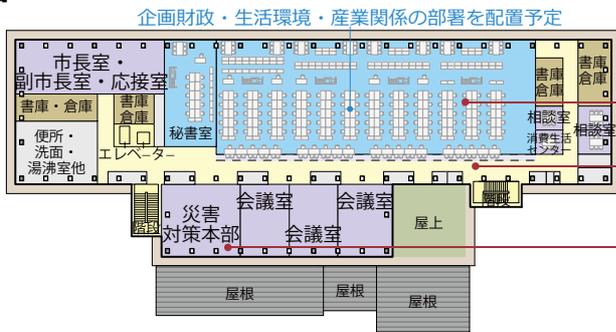


4階 執務室



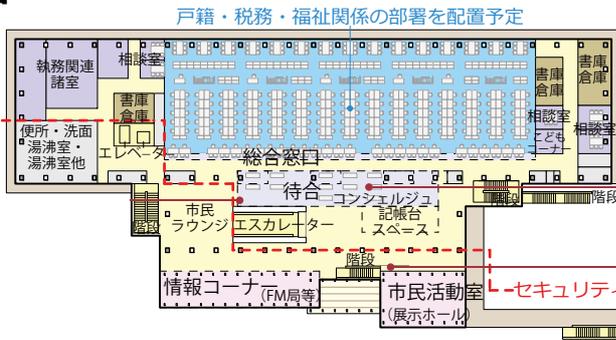
階段  
階段室をソーラーチムニーに利用

3階 執務室(窓口)・市長室・災害対策本部



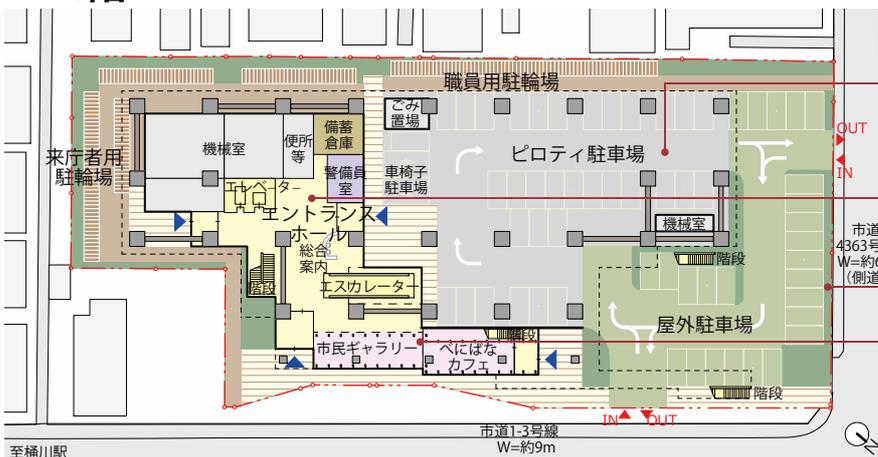
執務室  
まとまった片側執務室  
廊下  
EVホールからシンプルで迷わない動線  
災害対策本部  
3階会議室を災害時には災害対策本部として使用

2階 執務室・窓口・開放ゾーン(情報コーナー/市民活動室)



窓口・待合  
見通しがよく、迷うことのない空間  
開放ゾーン(2階)  
情報コーナーとして活用し、災害時は市民の一時避難やボランティア、プレスの拠点としても使用(情報コーナー、市民活動室等)

1階 エントランスホール・駐車場・開放ゾーン(市民ギャラリー・カフェ)



駐車場  
防災スペースとして救済物資の受入れや緊急車両スペースにも使用  
エントランス廻り  
2階窓口へエレベーター・階段の他にエスカレーターで速やかに移動  
植栽  
機能性、周辺の街路樹とのつながりに配慮した植栽  
開放ゾーン(1階)  
入りやすい雰囲気と交流が盛んになる開放ゾーン  
歩車分離  
駅からの歩行者、自転車の動線、自動車の動線が交差しない「歩車分離」